

平成28年度事業計画書

(平成28年9月1日から平成29年8月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

特定非営利活動法人フードバンク関西は、本年度、活動14年目に入ります。平成15年4月の活動開始以来、「食べ物は命の糧、大切にしたい」の思いに、皆様からの共感を得て、フードバンク事業を継続して参りました。この間無事に継続できましたことは、皆様からのご支援の賜と感謝し、本年度も事業内容の一層の充実を図る1年となるよう、ボランティア一同、心を合わせて努力したいと考えます。新年度、特に力を入れたい事業について、下記に説明します。

(1) 食品取扱量の拡大と要支援生活者への無償分配

①取り扱い食品量の確保、

フードバンク関西は、本年度も食品関連企業や個人から品質に問題のない食品の寄贈を受け、要支援生活者の自立を支援する非営利福祉団体等に、これらが無償で分配するフードバンク事業を継続し、さらに発展させます。

特に、食のセーフティネット事業、子ども元気ネットワーク事業、子ども食堂支援事業等で、食事の主食、副食食材の需要が大きくなり、その調達に特段の努力が必要になっています。これら食材の確保に特に努力すべく、的を絞った食品関連企業訪問を継続します。

②フードドライブ

本年度も、家庭からの食品ロスを減らし、消費者の意識改革を促すフードドライブへの取り組みを、協働できる団体に働きかけます。誰もが気軽に参加できる、家庭からの食品ロスを減らす実践として定着することが理想です。

当法人にとっては、参加者に事前告知をする時、集めたい食品の種類を指定する事ができるので、最も必要とする食材集めを効果的に実行する機会にもなります。

(2) 食のセーフティネット

食のセーフティネットは、一時的に困窮状態に陥った一般市民に対し、行政等の第三者機関から支援要請を受け、当法人が緊急支援食糧を無償で提供する仕組みです。

昨年度、支援件数が大幅に増加した事から、今後さらにこの傾向が続くことを考慮し、この事業に適切な食材の確保に努力する必要があります。

神戸市各区からの支援要請が増加していますが、未だにいずれの区とも事業協定が結ばれないままです。この状況を早急に打開すべく、神戸市の社会福祉協議会への働きかけをする必要があります。

また、行政との互惠関係を築き、これが当法人の長期的安定運営の一つの手段となるよう、話し合いの機会を積極的に活用し、働きかけを継続したいと考えます。

(3) 子ども元気ネットワーク

27年度から取り組み始めた、複数のNPOとの連携事業である「子ども元気ネットワーク」事業で、当法人は月1回の食支援を担当しています。平成29年4月の対象者の選定に向けて、受益者の条件を洗い直し、対象者の選定基準、支援の形を明確化します。困難な状況の中でも自立への意思を持つ母子世帯への支援として継続して

いきたいと考えます。

(4) フードバンクと子ども食堂の連携

平成27年度に続いて、本年度も子ども食堂との連携プロジェクトを進めます。

昨今、子どもの貧困や子育て環境に危機感を持つ人達の関心が高まり、関西地域でも子ども食堂の開設が相次ぐようになりました。子ども食堂は、子どもの欠食や孤食への対応策として有効であり、子どもや高齢者の居場所、地域住民が繋がり支え合う拠点となり得る取り組みと考えられます。

子ども食堂が、期待される役割を果たすには、利用者が歩いて行ける身近なところに開設されることが望ましく、そのためにはより一層の普及が必要です。しかし、当法人が平成28年5月より実施してきた子ども食堂に関するアンケートへの回答を見ると、一般市民の関心が高いとは言えない状況であり、子ども食堂への市民の認識を高め、広汎な地域住民の参加と協力体制を作っていく必要があります。

フードバンク関西は、フードバンク事業で扱う食品を活用しての食材支援を行い、子ども食堂の普及と長期継続可能な運営を支えます。

(5) 運営基盤強化のための取り組み

フードバンク関西が抱える最大の課題は、日々拡大する活動に必要な運営資金を、継続的、安定的に確保するための方法、仕組みの構築が模索の状態にある事です。

本年度は、事務所兼倉庫の移転を予定しており、その移転と設備投資に多大な資金が必要です。さらにその後の経常経費の増加への準備もする必要があります。

「多方面の団体への講演活動や活動紹介」「フードドライブ」、「食育プログラム」等、他団体との連携や多くの市民に参加していただく取り組みを通じて、当法人の活動への理解を求め、賛助会員を増やします。また食のセーフティネット事業で協働している6市1事業所への、食品確保のために必要なコストの分担や食品集めへの協力を求めています。

私達の活動を継続して支えて下さっている賛助会員の皆様に大切にし、「会員個人の負担は軽いから毎年継続できる。」「フードバンク関西は今、どのような活動をしているのか、いつでも分かる」と言ってもらえるような、皆様への情報公開と、ご支援をいただきやすいNPOであり続けていきます。

(6) 法人の事業形態の検討

フードバンク関西は、必要とする食品の大半を、地域の企業や個人からの寄贈で集めて、それらの食品を関西地域の支援を必要とする人達へ無償で分配しています。運営資金も賛助会員年会費と寄付をお寄せ下さる皆様の温かなご支援で賄っています。

当法人は、専従職員を置かず70人弱のボランティアが、作業を分担し活動しています。今後、取り扱い食品量がさらに増加し、事業規模が拡大した際には、専従職員あるいはボランティアの有償化は避けられない問題になります。

さらに、フードバンク事業を推進するための後ろ盾になる法整備や万一の事故への免責あるいは公的保険制度の制定に対しても、他のフードバンク団体と連携して公的機関への働きかけを開始する時期に来ていると考えます。

将来必要になる変革を具体的に描きながら、事業拡大を励む必要があります。

(7) 事務所兼倉庫の移転

現事務所兼倉庫が手狭であることに因り、取り扱い量の拡大は物理的に不可能、冷

凍食品の取扱量が増加し新たな冷凍庫設置が必要であるのに置く場所がない、食品の仕分け作業も狭い場所で効率が上がらない等、今後の事業拡大を阻む複数の問題が発生しています。その解決法として、事務所兼倉庫の移転を、本年度中に行う事を予定しています。現在候補地を探しており、適切な移転先を見つけて、4月以降に移転を実行します。

計画が具体的になった段階で臨時総会を招集し、移転計画、特別会計として移転費用、設備工事費の予算の承認を経て、移転事業を実施していきます。

以上、「命の糧である食べ物を大切に、まだ食べられるのに廃棄される食品を引き取り、それらを必要とする人達に届け、「ありがとう」が飛び交うフードバンク関西の活動スタイルを原点に置きつつ、新たな飛躍に向けて準備を整えていきたいと考えます。皆様方のご支援をよろしくお願い致します。